

商工会議所は、市など一定地区内の商工業の世論を代表し、商工業の振興に力を注いで、国民経済の健全な発展に寄与するための地域の総合経済団体です。各県には県内の商工会議所を会員とした商工会議所連合会があり、会員間の協調を図るとともにその意見を集約し、行政機関および県内経済団体などとも連携して、産業経済の改善・発展に寄与することを目的とした事業活動を行っています。

このシリーズでは、中部9県の商工会議所連合会を訪問し、各県の現況や課題、商工会議所連合会、および傘下の商工会議所の活動などについてのお話を伺います。

第6回となる今回は一般社団法人福井県商工会議所連合会です。

## 第6回 一般社団法人福井県商工会議所連合会

### 一般社団法人福井県商工会議所連合会概要

住 所：〒918-8580 福井市西木田2-8-1

代表者：会頭 川田達男

URL：<http://www.fcci.or.jp/as/>

創 立：1951年2月13日

県内商工会議所数：7

地区内商工業者数：30,245（2012年4月1日現在）

県内商工会議所会員数：14,615（2013年4月1日現在）



会 議 所 名	所 在 地	会 議 所 名	所 在 地
福井商工会議所	福井市西木田2-8-1	敦賀商工会議所	敦賀市神楽町2-1-4
武生商工会議所	越前市塚町101	大野商工会議所	大野市明倫町3-37
勝山商工会議所	勝山市元町1-18-19	小浜商工会議所	小浜市大手町5-32
鯖江商工会議所	鯖江市本町3-2-12		

一般社団法人福井県商工会議所連合会

専務理事 鰐淵 信一氏



## 福井県商工会議所連合会の役割、事業内容

－福井県商工会議所連合会（以下、県連）の役割と主な事業内容についてお聞かせください。

鰐淵 福井県には7つの商工会議所があります。組織として、県連の存在によって7つの商工会議所が円滑に運営され、県連のメリットを感じてくれているのかもしれませんが、それだけでは社会的役割を果たしたとはいえません。各商工会議所の会員が喜んでもらえるような取り組みをすることが、大きな役割といえます。各商工会議所の個別の活動もちろんありますが、個々の商工会議所だけではできないような大きい問題などは県連がやっていかなければならないと思います。

商工会議所のいちばんの活動は意見活動です。県連は、各商工会議所の意見をまとめて公表し、関係官公庁をはじめ必要なところに具申し、その実現を図るよう活動しています。まず、会頭会議はプレスオフで本音の部分をいろいろ話し合う場です。これも県への要望のひとつの形ですが、ここでは要望書を出すことはしません。その下に正副会頭会議があり、ここで直面しているさまざまな問題を話し合い、地域が抱える問題についての要望書を提出しています。

ほかにも、調査研究と統計による情報提供、商工業の啓発宣伝に関する総括的事業、他の経済団体や各種団体との連絡協調、商工業の経営および

技能の改善や商工業の発展振興、物産および観光の宣伝開発などの事業があります。

－各商工会議所をとりまとめるにあたって、苦勞されている点があればお聞かせください。

鰐淵 福井の県連は歴史が大変古く、1949年設立の「福井県商工連合会」から始まり、1951年2月に現名称に改称しました。同年3月26日には全国で最も早く社団法人化しており、早くから組織体制が整えられました。

商工会議所連合会の組織は、事務局のある商工会議所の専務理事が商工会議所連合会の専務理事も兼任することが多いと思いますが、県連の場合、2001年から福井商工会議所の専務理事と県連の専務理事は別の人が就いています。

県連のお客さまは7つの商工会議所になります。福井商工会議所は地元ですが、他の6つの商工会議所をできるだけ訪問し、会頭や副会頭と直接話をすることが、取りまとめ役としては大事です。特に、考え方が異なる商工会議所には、できるだけ多く伺わせていただくようにしています。

－各商工会議所との情報の共有や連携において、力をいれている点、工夫されている点があればお聞かせください。

鰐淵 他の県も同じでしょうが、専務理事会議、事務局長会議、相談所長会議や部門別の会議などを定例的に開催するなかで、国や県からの情報を共有し認識をひとつにすることがいちばん大切だと思います。県連では、ここ7年、勝山で「福井



県経済界サマースクール」を実施しています。参加者は、県内にある7つの商工会議所の正副会頭と専務理事、経済団体のトップの方、地元のリーディングカンパニーの方、知事、県庁の部長などです。経済産業省の事務次官をはじめ各界の一流の方を講師に招いて勉強会や懇親会を開催します。他の県ではあまり例がない事業ではないでしょうか。地元の経済界の人たちが一堂に会することによって横のつながりも深くなります。来夏の基本企画もまとまり、少なくとも10年は続けたいと思っています。

—行政や他の経済団体とはどのような連携をとっているのでしょうか。

鰐淵 私は、県連の専務理事のほかに「福井県経済団体連合会（以下、福井経団連）」の専務理事も務めております。福井経団連の事務局は県連にありますので、行政や主な経済団体間との連携は良好だと思っています。先ほど紹介した「福井県経済界サマースクール」も、各経済団体が協力して各経済団体のトップにも出てきていただいています。ですから、ここに参加することが福井県の経済界のステータスみたいになってきていますね。

商工会議所は政治活動は行えませんが、経済団体連合会は任意団体ですから政治団体を持つことが可能です。福井経団連は、政治団体を別に持つ必要な時には政治活動を行っています。現在の福井県知事は三期目半ばですが、経済界も支持しています。行政が商工会議所や経済団体をどう見ているかを知れば、行政との連携は非常に円滑に進みます。会合も重要ですが、日常的に県や市へ行って話ができるということも重要です。こうした背景があり、行政とは良好な連携が取れています。

県外との連携では、「ふるさと13県商工会議所ネットワーク」<sup>(※1)</sup>へ参加しています。これまで、商工会議所は近隣ブロックで連携することが多かつ

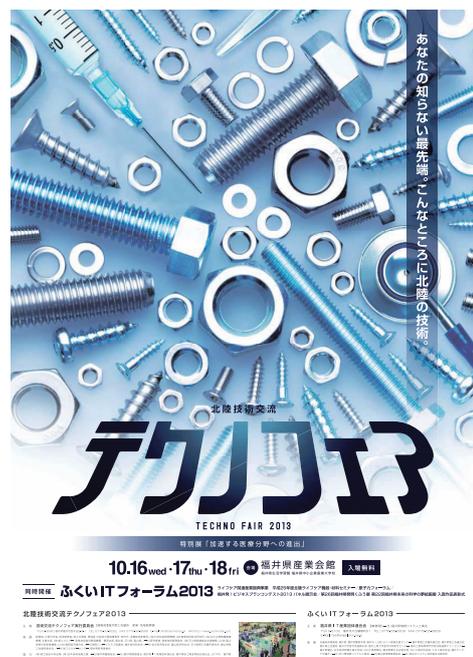
たのですが、文化も地域性も違う離れた地域の人たちと情報交換ができるような集まりが、県連の呼びかけで今年の3月に立ち上がりました。ここから、会員の売り上げ向上につながる大型商談会や展示会への共同出展などの事業展開も期待しています。

## 福井県の産業

—福井県の産業の概要、特徴についてお聞かせください。

鰐淵 福井県の産業の中心は繊維産業ですが、他には機械産業や眼鏡産業なども主要な産業です。農産物では、コシヒカリに代表されるお米が主要産品です。水産物で名が通っているのは、越前ガニや若狭フグ、若狭グジなどがあります。

福井県の特徴として挙げられるのは、老舗企業が多いことです。創業100年以上の「老舗」が県内に457社あります。全企業に占める割合としては3.14%で全国6位です。伝統的に同じ業態を継承している企業もたくさんありますが、震災や戦災、経済不況などを契機に技術革新や業



(※1) 「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」に参加する13県（青森、山形、石川、長野、山梨、三重、福井、奈良、鳥取、島根、高知、熊本、宮崎）の商工会議所連合会（一部は商工会議所）が、産業行政と事業協力しながら、商工会議所会員の売上向上につながる商談会や展示会への共同出展など、会員メリットとなる事業を展開するため設立した組織。

態変更を行い、新陳代謝を図って生き延びてきた企業も多いのです。同じことだけやっていたら、なかなか100年も生き残れないと思いますね。福井県は、「『ふくいこれから100年企業』育成プロジェクト」を立ち上げて技術革新を応援する事業に取り組んでおり、県連もそれに協力しています。

また、県連の主催で「北陸技術交流テクノフェア」を行っています。今年で24回目で、前身の事業を含めると27回目になります。民間から国への働きかけが一般的ではなかった時代に始めた事業で、現在では出展社数は130社にもものぼります。他県にはそれほど知られていないかもしれませんが、大手企業にも参加いただき、活発な商談会が行われています。

**ー福井県を代表する産業として繊維産業があり、羽二重などの伝統的な織物から産業資材に至るまで幅広く生産されていますが、繊維産業の現況と課題についてお聞かせください。**

**鰐淵** 福井県は織物の総合産地を形成しています。品種は、合成繊維を中心に人絹、絹織物、細幅繊維、アパレルなど多岐にわたり、織布から撚糸、サイジング、染色加工と、実にいろいろな業種が集積しています。かつて、福井県は世界の長繊維業界ではトップクラスの地位にありました。しかし、近年は中国などとの競争激化や輸入クォータ制が撤廃されるなど、非常に大きな変化に見舞われています。そうした中で、各企業が新たな方向を模索しています。例えば、もともと機業だった会社が、このままでは駄目だということで建設資材の分野に乗り出したりしています。また、福井で生まれた炭素繊維の開繊技術を活用して新しいビジネスをやっておられる事業所も多くあります。県内にあるセーレン株式会社は、もともと染色加工業だったのですが、絹製品を扱う人の肌がきれいなことにヒントを得て化粧品を作ったり、さらには人工血管を扱うなど、幅広い事業を手掛けています。このように、福井県では各企業がそれぞれのモノづくりを基本に特徴ある方向を目指して

います。その結果、有効求人倍率が高く失業率が低い状況になっています。

**ー他県にはない福井県の特徴的な産業に、全国90%以上のシェアを誇る鯖江市の眼鏡枠製造業がありますが、現況と課題についてお聞かせください。**

**鰐淵** 鯖江市はメガネフレームの国内生産の95%を占める産地で、100年を超える歴史がありますが、製造品出荷額が20年前と比べて半分以下にまで落ち込むなど、今は大変厳しい状況にあります。とはいえ、若い人たちが自分のブランドで成功したり、小さな眼鏡屋さんが眼鏡の素材であるチタンを使って医療用機器を開発したり、有志の方がチタンや樹脂を使って文房具やアクセサリや耳かきなどを作ったり、ということも出てきています。まだ産業になるほどの規模ではありませんが、苦しいなかで新たな方向を目指す動きが出てきたことには、今後の期待が持てると思います。

**ー福井県には刃物、陶器、漆器、和紙など多彩な伝統工芸品がありますが、現況と課題についてお聞かせください。**

**鰐淵** 国指定の伝統的工芸品である越前漆器と越前和紙が伝統工芸の代表格です。60を超える小さな窯元がある越前焼は、しゃれたデザインのものも出てきており、地元では記念品に使うような動きもあります。

越前打刃物も有名です。今年1月、フランスのリヨンで開催された「ボキューズ・ドール」というフランス料理の世界一を決めるコンクールで、シェフの浜田統之氏が日本人で初めて三位に入賞しました。ここで、浜田氏と産地の人がコラボして作った越前打刃物のテーブルナイフが使用され、そのときの切れ味が世界のシェフたちを驚かせました。後継者も少なく産地が厳しい状況のなかで、このようにスポットが当たることで、打刃物の継承に大きな可能性が出てきたと思います。木工関係では、越前漆器の木地師が木製のパソコンキーボードを制作したり、越前市で間伐材を利用した

「三連時計<sup>(※2)</sup>」が開発されたりしています。三連時計はブライダルの人気商品になっているようです。

これらは、一部ではものすごく注目を集めているんですが、福井の人は宣伝下手なところがあって、なかなか多くの人に知られていないようです。県内でも、「こういうものがあるよ」と話すと、「えっ!」と驚かれることが多いです。最近、ようやく芽が出てきたというところですよ。

—福井県は米（コシヒカリ）や越前ガニなどがある名で、農業、水産業とも盛んなイメージがあります。現況や課題あるいは農商工連携の事例などをご紹介ください。

鰐淵 福井県は国内屈指の良質な米の産地です。コシヒカリのふるさととは、実は福井県なんです。1956年に福井県農業試験場で作られました。コシヒカリというと、今では新潟県の魚沼産が有名で値段まで違いますが、味はこちらのほうがいいと思います。一方、福井県農業試験場はポスト「コシヒカリ」の新品種の開発に取り組んでおり、間もなく誕生しますので、今、福井県では米産地としての新たなアピール戦略を練っています。

福井県には兼業農家が多く、あまり手間のかかる農産物を作らなかったのですが、個々の動きが少しずつ活発になってきています。福井県は、やる気のあるプロフェッショナルの農家の育成に力を入れています。また、農商工連携では、農協には頼らずに自分たちでやる人が増えています。そうした動きは数年前まではほとんど認知されていませんでしたが、東京のレストランと組む例などもあり、今ではかなり浸透してきました。

若狭町三方地区で栽培されている「新平太夫」という大粒の梅を使って、越前市の製菓会社が新しい梅製品を作っています。これは、先にお話した「三連時計」とともに武生商工会議所がサポートしています。

—1997年度から10年で観光客が9.4%増加していますが、一方で芦原温泉など有名観光地への訪問者や宿泊客の減少が指摘されています。現況と課題についてお聞かせください。

鰐淵 福井県の観光が大きく変わってきています。福井県の観光地というと永平寺や東尋坊を思い浮かべる方が多いと思います。東尋坊でこそ年間の観光客は116万人ですが、永平寺の年間参拝客は50万人あるかないかです。一方、近年人気を集めている勝山市の福井県立恐竜博物館は、今年の来訪者が60万人になりそうな勢いです。また、ソフトバンクのCMでブレイクした福井市郊外の一乗谷朝倉氏遺跡は70万人くらいでしょうか。こうした有料施設に、これほどの人にお越しいただいています。しかも、県外からの来訪者が7割に及んでいます。

福井県立恐竜博物館は「世界三大恐竜博物館」のひとつと言われていますが、ここは単に見せるだけの博物館ではなく、恐竜の研究機関でもあり、常に展示内容が進化しています。さらに、今年4月には福井県立大学の附属機関として「恐竜学研究所」を設置しました。夏には秋篠宮一家もお見えになり、たいへん感心しておられました。福井県立恐竜博物館は家族連れが中心ですが、発掘体験もできるので滞在時間が長くりピーターも大変多くなっています。

若狭地方の観光も大切です。三方五湖がラムサール条約登録湿地になり、水鳥の重要な生息地として脚光を浴びつつあります。もうひとつ、最近特に話題になっているのが三方五湖のひとつの水月湖で掘削された「年縞」です。年縞とは長い年月を経て湖の底に積もった土の層がつくる縞（しま）模様のことで、水月湖から約7万年間の堆積物が縞模様になって現れました。掘削調査で過去約16万年分の連続した土を採取できたため、このデータが地質学的年代を決定するうえでの事実上の世界標準になりました。このほかに、若狭三方縄文

(※2) 一枚の板から作られる木目のつながった3連の時計。新たに家族となる新郎新婦と両家の3家族が力を合わせて時を刻んでいこうという意味もあり、新郎新婦からそれぞれの両親へ感謝の気持ちを込めて贈る人が増えている。



博物館もありますし、これからは自然、地質、古代というテーマが福井県の魅力になっていくのではないかと思います。

—各商工会議所での特色ある活動があればご紹介ください。

鰐淵 大野商工会議所では、大野市内に住んでいる60歳以上の方を対象とした「ゆうゆうキャンペーン」という取り組みをしています。ゆうゆうキャンペーン参加協賛店で買い物をしてくれた人にはスタンプを一個押すのですが、お孫さんと一緒にいくと、一緒に行ったお孫さんの人数分のスタンプももらえます。また、コミュニティバスや乗合タクシーに乗っても押してもらえます。スタンプが5個貯まると、年4回の豪華な賞品が当たる抽選会に応募できます。「ゆうゆうキャンペーン」

の狙いは、高齢者に町に出てもらい少しでもお金を使ってもらおうということです。大野というのは小さな町ですから、まずは町に出てもらいたい。高齢者を大切にすることにもつながるし、高齢者自身が元気になることでもあります。

敦賀商工会議所では、「百縁笑店街」という取り組みをしています。商品に傷があるために定価で売れないものとか、例えば自転車屋さんが大根を扱うなど自店の専門の商品以外でもいいので、それぞれの商店が100円で売るものを用意します。商店街中を100円ショップのように気軽にお店に入ってもらえるようにする仕掛けづくりです。そして、縁日のように賑やかになるよう、スタンプラリーと組み合わせて集客しています。「笑」の文字を使っているように、ひとつの笑いの提供でもあるようです。

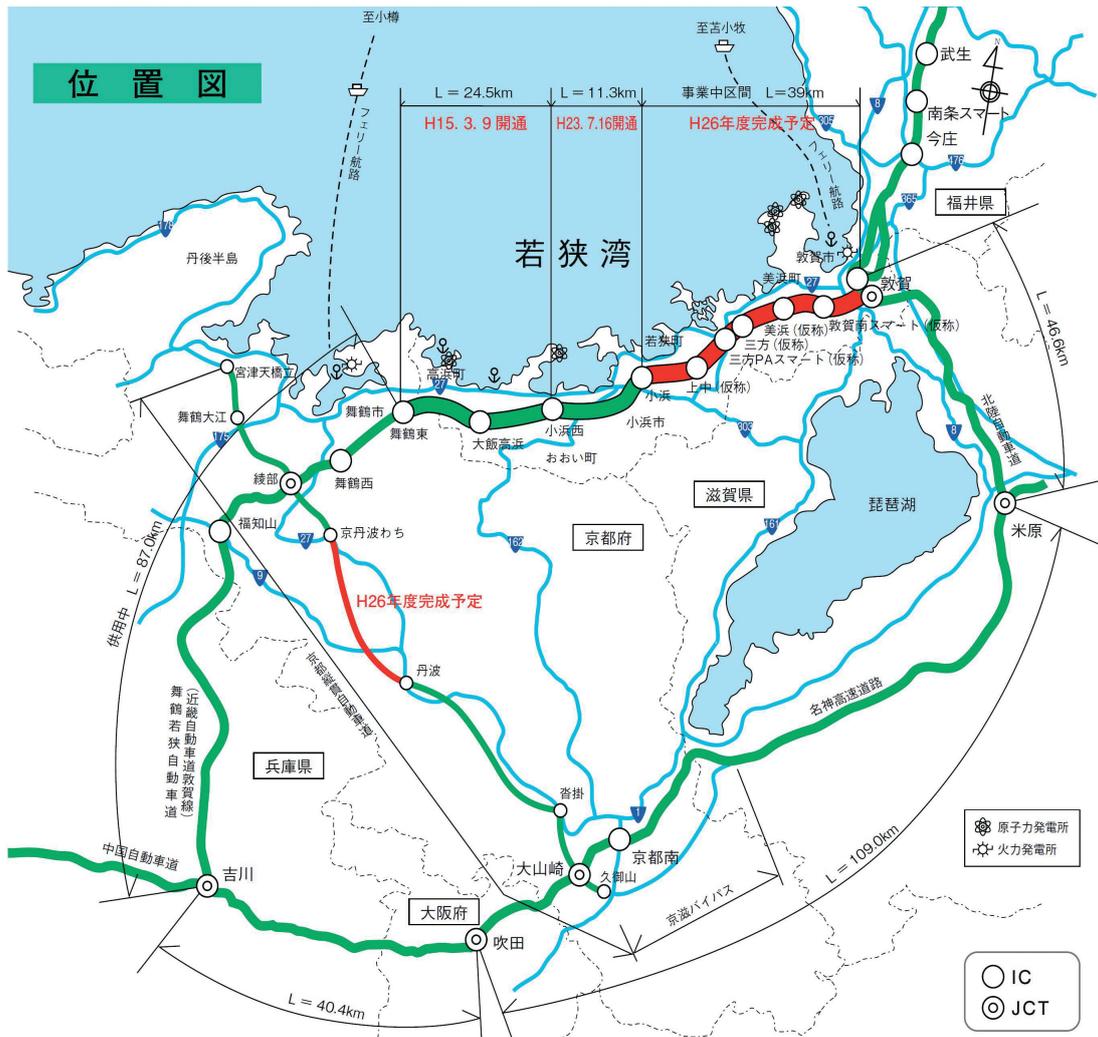
地元の人は「そんな大したことじゃない」と考えているようですが、地域でのそうした取り組みは大切に、もっとアピールしてもらえばいいと思うのですが。それをいちいち言わないところが福井県民の奥ゆかしいところでしょうか。そうした県民性を克服する意味では、福井商工会議所で行っている「合同プレス発表会」はいい取り組みかもしれません。マスコミへの広報をなかなかうまくできない小さな事業所に対して、新聞発表の方法も教えながら合同で発表する場を設けるもので、参加者はマスコミに対して5分間のプレゼンテーションを行い、マスコミはプレゼンテーションや商品に対して評価をつけます。2011年度から実施を始めて現在まで9回行い、延べ99社が参加してマスコミなどの媒体に102件が取り上げられました。この事業は、日本商工会議所からも表彰されました。

## 福井県のインフラ整備

—福井県内では舞鶴若狭自動車道と中部縦貫自動車道の整備が進められていますが、今後の事業計画や開通後の見通しなどについてお聞かせください。

**100円で食べて、笑って、10/15 商店街を楽しもう!!**  
**31日 敦賀百縁笑店街**  
 10:00~12:00

**スタンプラリー抽選会**  
 12名 参加店賞  
 敦賀百縁笑店街のお食事券1,000円分  
 100円分のお買物券



舞鶴若狭自動車道位置図

福井県ホームページより

**鰐淵** 舞鶴若狭自動車道は、2014年度に全線開通します。開通すると、敦賀―小浜間の移動が30分以上も短縮されて嶺南地方へのアクセスが非常に良くなります。若狭が中京地方からもっと近い地域になりますので、海水浴客や観光客の増加が期待されます。

中部縦貫自動車道は、大野市から岐阜県境までの着工見通しが一部で立っていませんが、まずは、北陸自動車道から大野までが開通してくれればと思います。福井市から勝山市や大野市へは結構時間がかかっていましたが、少しずつ開通して便利になってきています。沿線の勝山市にある福井県立恐竜博物館も、開館した頃の訪問者は25万人でしたが、今では60万人を超える勢いです。知事も「この調子で100万人を目指す」と言っておられますので、早期開通が望まれます。

―福井鉄道とえちぜん鉄道三国芦原線の相互乗り入れが2015年度に計画されています。事業の進捗状況や実施後の効果の見通しなどをお聞かせください。

**鰐淵** 現在調整中です。2015年度からの乗り入れ開始が目標で、これによって通学、通勤、通院などの移動が非常にスムーズになります。乗り換えるという作業はやはり面倒なことから、地域交通にとって非常に大きなことです。相互乗り入れによる経済効果よりも、地元の利便性を向上させることが使命だと思います。

また、福井鉄道の低床車両「FUKURAM（ふくらむ）」が導入され、市民に愛されるようになってきました。今までは郊外電車が市内の軌道区間を走るので少し違和感もありましたが、低床車両により街の風景も変わり、親しみを感じるように

なってきました。えちぜん鉄道は、一時期は廃線かともいわれておりましたが、年間の旅客数が300万人を超すまでに回復してきました。福井鉄道も含め「鉄道を残してよかった」と思われていると思います。

－防災対策などで、県連や各商工会議所の活動があればご紹介ください。

**鰐淵** 2004年7月の福井豪雨では福井商工会議所ビルの1階が30cmほど浸水し、地下は水没しました。テレビでも報道されましたし、修復費用には約5億円もかかりました。その影響で、危機意識は非常に高いです。東日本大震災のときには、県下の商工会議所は応援の職員を大船渡市をはじめ被災地へ派遣しました。そういう現場を経験して、防災意識はさらに高くなっていると思います。

## 今後の課題や抱負、その他

－今後の課題、抱負や方向性などについてお聞かせください。

**鰐淵** 商工会議所という制度は130年続いていますが、果たして商工会議所や商工会議所連合会はこれからも続くのかという危機感があります。企業の廃業数が創業数を上回り、会員数が減少していく現状で、必ずしもそれぞれの市に商工会議所がある必要がなくなってきました。商工会議所の人件費は国や県にも負担をいただいています、これらは早晩厳しい状況になるでしょう。そうした問題を抱えるなかで、「必要とされる商工会議所」をどう作っていくかこそが、今の最大の課題だと思っています。

福井県内では14,615人の会員がいますが、会員のために何ができるのか、それを考えていくことが大切だろうと思います。そういう意味で、それぞれの商工会議所が、会員を「お客さま」だと思い、今まで以上に会員の方に有益な事業を展開することが重要です。また、個別の企業だけでなく地域全体の将来を考えていくことも、商工会議所の大切な仕事だと思っています。

もうひとつ、14基の原子力発電を有する福井県の今後は、この問題を抜きにしては語れません。いろいろな意味で地域が原子力発電に依存してきたことは事実ですし、今後、かつてのような状況にならないことも確実でしょう。ですから、福井県としてどういう形で生き残っていくのかを考えなくてはなりません。私は、原子力発電が少なくなっていくなかでも、福井県は基本的にエネルギー立県で生きるべきだと思っています。今、働きかけているのはLNG（液化天然ガス）です。日本海側では新潟県にしかLNG基地がないので、国土強靱化計画や東南海地震なども考慮して、敦賀市を中心とした地域にLNG関連の施設を誘致してはどうかと動いています。原子力発電に比べれば経済効果は少ないと思いますが、LNGの供給地域として生き残っていく意義はあるのではないかと思います。原子力発電所に加え新たな何かを持ってこない地域が衰退してしまうのではないかという懸念があるからです。

－福井県からみた中部圏とはどのような圏域なのでしょう。また、中部圏において福井県が果たしている役割についてどのようにお考えでしょうか。

**鰐淵** ネガティブに考えるかポジティブに考えるかによって違ってきますが、私は「福井県は恵まれている」と考えたほうが良いと思います。北陸圏の一員でありながら中部圏にも関西圏にも属しています。経済的には、歴史的に関西圏とのつながりが強いのですが、自動車関連企業で中部圏とのつながりを強めている企業もたいへん多い。また、敦賀市までは北陸電力の供給エリアですから、北陸の企業との交流もあります。中部圏には長野県も含まれますが、福井県から見ると長野県ほど行くのに不便なところはない。しかし、北陸新幹線が開通すると長野県ははじめ信越地方との繋がりが強くなっていくのでしょうか。一方、福井県のマイナス面は行政監督官庁の所管です。経済産業局と地方整備局は近畿、地方運輸局は中部と分かれており、不便なことは否めません。

数字で見る福井県の姿

県庁所在地：福井市 人口794,656人 (2013年9月1日現在)

面積	4,190 (km <sup>2</sup> )	2011年
市町村数	17 (市町村)	2013年4月
総人口	803 (千人)	2011年度
総世帯数	276 (千世帯)	2011年度
人口密度	192 (人/km <sup>2</sup> )	2011年
就業者数	402 (千人)	2010年
外国人登録者数	12,176 (人)	2011年
産業別就業 者数構成比	第1次産業	3.9 (%)
	第2次産業	31.3 (%)
	第3次産業	63.0 (%)
県内総生産	3,113 (10億円)	2009年度
一人当たり県民所得	2,663 (千円/人)	2009年度
事業所数	49 (千事業所)	2009年
鉱工業生産指数	104.6 (05年=100)	2011年
消費者物価指数	99.2 (10年=100)	2011年
農業産出額	41 (10億円)	2010年
製造品出荷額	1,807 (10億円)	2010年
卸売業年間販売額	1,326 (10億円)	2007年
小売業年間販売額	905 (10億円)	2007年
情報サービス業売上高	18 (10億円)	2010年
大学等進学率	56.0 (%)	2011年
乗用車保有台数	38 (台/百人)	2010年度